

令和 5 年度 北九州市立 高見中 学校 スクールプラン

学校教育目標

教職員の信頼と協力を基調とし一人一人の生徒に人権の精神を培い知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の

子どもの学びに関すること

重点 目標	自らの考えを広げたり深めたりできる子どもの育成	重点 的 取 組	<p>○わかる授業づくりの5つのポイントを意識した授業、学習評価に基づく指導と評価の一体化を推進するため、各学期に2回ほど教科主任会や教科部会等で研修を実施する。</p> <p>○G I G A端末を活用した、1人1人の理解状況や能力・適正に合わせた、個別最適な学びを推進するため、情報教育推進部会が授業支援、および授業提案を行う。</p> <p>○一昨年度のG I G Aスマートスクール事業の取り組みを踏まえて、教職員のI C T活用スキルの一層の向上を目指す。</p>
指 標	<p><学校生活アンケート></p> <p>◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」について、肯定的な回答をした生徒の割合【70%以上】</p> <p>◆「学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」について、肯定的な回答の割合【80%以上】</p>		

子どもの心の育ちに関すること

重点 目標	自分や友達によさに気づき、認め合う子どもの育成	重点 的 取 組	<p>○考え、議論する道徳を推進し、よりよい生き方について考える指導を実践する。</p> <p>○5月に生徒実態調査（学力実態【国数】・生活実態・セルフエスティーム【自尊感情】）実施し、生徒の実態を把握する。また、経年比較を行う。</p> <p>○人権教育部が行う研修会を8月と1月に実施する。ここでは、全職員が生徒指導に関わるレポートを作成して交流を行う。</p> <p>○北九州子どもつながりプログラム等を活用し、生徒のコミュニケーション能力向上を図る。</p>
指 標	<p><学校生活アンケート></p> <p>◆「自分にはよいところがある」について、肯定的な回答をした生徒の割合【70%以上】</p> <p>◆「先生や友達はあるよきところを認めてくれていると思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合【80%以上】</p>		

子どもの体力に関すること

重点 目標	日常的に運動に親しむ子どもの育成	重点 的 取 組	<p>○運動に対する関心意欲を高めるために、クラスマッチ等のスポーツ行事の実施、部活動への参加を促進する。</p> <p>○保健体育科では、運動が苦手な生徒の自己肯定感やスポーツへの興味・関心の向上を図るために、G I G A端末を活用した学び合う学習を行う。</p> <p>○保健体育科の準備運動では、持久力を高めるランニングや筋力を高めるジャンプアップ運動を行う。また、単位時間あたり25分以上の運動時間を確保する。</p>
指 標	<p><学校生活アンケート></p> <p>◆「運動やスポーツが好き」について、肯定的な回答をした生徒の割合【80%】</p> <p>◆「学校の体育の授業以外に、運動を1週間で合計60分以上行っている」の肯定的な回答をした生徒の割合【85%以上】</p>		

令和 5 年度 北九州市立 高見中 学校 スクールプラン

学校教育目標

教職員の信頼と協力を基調とし一人一人の生徒に人権の精神を培い知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の

長欠・不登校対策 に関すること

重点 目標	学校が好きな子どもの育成	重点的 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が生徒一人一人に目を向け、日常的なふれあいを通して、いじめや心の悩みなどの早期発見、解消に努める。 ○週に1度の生徒指導委員会、月例の特別支援ケース会議では、学年・学級を取組状況等を報告・確認する。同日に終礼を行い、全職員で状況と課題を確認する。 ○学校生活アンケート、セルフエスティーム、SUTEKIアンケート等を行い、結果を分析し、長期欠席の未然防止と初期対応に努める。 ○ステップアップルームの充実や教育支援室等の関係機関との連携を強化し、未来へのとびらオンライン授業などを積極的に活用する。
指標	<p><学校生活アンケート></p> <p>◆「学校に行くのが楽しい」についての肯定的な回答をした生徒の割合【85%以上】</p>		

業務改善 に関すること

重点 目標	働きやすい職場づくり	重点的 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○実施可能な定時退校日を設定し、管理職と職員相互による声かけを行う。 ○職員会議では、資料を事前配布したり、ICTで資料配付したりして、短時間かつ設定した時間を守ることを徹底する。 ○管理職による、計画的な年休取得を推進する。 ○教務主任が週日程表を作成し、教職員が見通しを持って業務に取り組むことができるようにする。また、毎月の職員会議では、教頭が日常の業務改善について振り返るように呼びかける。
指標	<p>◆1か月の時間外勤務が45時間以下の職員の割合【80%】</p> <p><学校評価アンケート></p> <p>◆「よりよいワークライフバランスの実現を目指して、業務の手順を見直したり、工夫したりした」についての肯定的な回答をした教職員の割合【90%以上】</p>		